

令和6年度 地域学校協働活動コーディネーター養成講座【第3回】 振り返りアンケート集計

<p>Q:事前学習用動画の内容の理解はできましたか？ 1:とても理解できた 2:まあまあ理解できた 3:あまり理解できなかった 4:ほとんど理解できなかった</p>	<p>理由等 (一部抜粋)</p>										
<p>1ア事前動画①②③</p> <table border="1"> <caption>1ア事前動画①②③の理解状況</caption> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 とても理解できた</td> <td>57%</td> </tr> <tr> <td>2 まあまあ理解できた</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>3 あまり理解できなかった</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>4 ほとんど理解できなかった</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	1 とても理解できた	57%	2 まあまあ理解できた	34%	3 あまり理解できなかった	9%	4 ほとんど理解できなかった	0%	<ul style="list-style-type: none"> ●子供たちに付けるべき力について再確認できた。 ●それぞれの学校段階の指導内容を知ることができた。 ●学校と地域がカリキュラムを軸として効果的な教育活動をつくる意義が理解できた。 ●地域が今課題として取り組む必要があることのアイディアというか考えをいただいたように思う。 ●CSがなぜ必要なのか、また、どの様に展開していけばよいのかについては理解できた。 ●総則をプリントアウトして、動画を視聴しながら主旨や内容等について確認した。 ●予測が困難な未来を生き抜く子供たちのために、多様な人々と関わり、協働していく力を身に付ける必要がある。深い学びの実現のために、学校、地域、保護者が一体となって、社会に開かれた教育課程を推進していく必要がある。
理解度	割合										
1 とても理解できた	57%										
2 まあまあ理解できた	34%										
3 あまり理解できなかった	9%										
4 ほとんど理解できなかった	0%										
<p>Q:講義・熟議演習の内容の理解はできましたか？ 1:とても理解できた 2:まあまあ理解できた 3:あまり理解できなかった 4:ほとんど理解できなかった</p>	<p>理由等 (一部抜粋)</p>										
<p>1-イ「学校運営協議会における教育課程の充実改善」</p> <table border="1"> <caption>1-イ「学校運営協議会」の理解状況</caption> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 とても理解できた</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>2 まあまあ理解できた</td> <td>21%</td> </tr> <tr> <td>3 あまり理解できなかった</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>4 ほとんど理解できなかった</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	1 とても理解できた	78%	2 まあまあ理解できた	21%	3 あまり理解できなかった	0%	4 ほとんど理解できなかった	1%	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて、未来をつくる子供たちが主体に活動を進めることの大切さがよく理解できた。 ●学校だけが抱えるのではなく、学校と地域がパートナーとして一体となって子供たちの成長を支えていくために、学校運営協議会が大切であると再認識できたため。 ●「1つでいいのでゆっくりみんなで」という言葉が印象に残りました。今ある地域のもの、やっていることを整理し、さらに活かしていこうと考えることができました。 ●熟議することで、次第に解決策や課題が洗練されていくということが分かった。 ●地域学校協働活動について理解を深めることができた。イコールパートナーであるべきで、大人が手を出し過ぎないことが大切であることを理解した。 ●活動を始めたばかりでつい「何をするか」と考えがちでした。「何で一緒にするのか」の原点の大切さを再確認できた。 ●地域と学校はイコールパートナーであること、合意形成のための熟議の大切さを感じた。 ●大切なことは理解できた。が、それを今の自分の地域へどう生かしていくかを考えさせられた。
理解度	割合										
1 とても理解できた	78%										
2 まあまあ理解できた	21%										
3 あまり理解できなかった	0%										
4 ほとんど理解できなかった	1%										
<p>1-ウ「プロジェクト・マネジメント(ワークショップ)」</p> <table border="1"> <caption>1-ウ「プロジェクト・マネジメント」の理解状況</caption> <thead> <tr> <th>理解度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 とても理解できた</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>2 まあまあ理解できた</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>3 あまり理解できなかった</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>4 ほとんど理解できなかった</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	理解度	割合	1 とても理解できた	75%	2 まあまあ理解できた	22%	3 あまり理解できなかった	1%	4 ほとんど理解できなかった	2%	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の方の意見(同じグループ)を聞いたのがよかった。学校の言語で話してしまうと、地域の方には伝わらないことがよく分かった。まさに目からウロコだった。 ●キーワードは共有で、何事でも共有していくことが大切だと改めて感じ、他グループの取組も参考になった。 ●活動を可視化することで、情報の共有ができ、共通点や課題の発見、行動プラン作成につなげていけるように感じた。 ●子供のゴールの姿を真ん中に置き、教育課程の充実に向け、情報共有することの大切さを再確認した。 ●演習で、いろんな角度からの取組や考え方などについて学ぶことができ、とても楽しかったです。 ●各学年と各教科等でカリキュラムを関連付けて考えることで、可視化でき見直しも容易になってくると思った。 ●初めて受講したのですが、あせらず、結果有りではなく、少しずつ身近な所から声掛けもしたい。(当事者性) ●地域とのつなぎ役として、しっかり情報を発信できるようにしていきたい。
理解度	割合										
1 とても理解できた	75%										
2 まあまあ理解できた	22%										
3 あまり理解できなかった	1%										
4 ほとんど理解できなかった	2%										
<p>Q:研修会で学んだこと【自由記述】 (一部抜粋)</p>											
<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティ・スクール導入に不安ばかりが先行していましたが、「ゆっくり、ひとつのことを深く」ということを言われていて少し安心した。 ●手当たり次第にやるのではなく、まずは1つのことを決めてゆっくりと進めていく。20年後の子供たちの未来の社会のために活動する。 ●カリキュラムを可視化したことで、改めて先生方の指導の大変さを実感した。同時に、子供たちの学びが生活を豊かにするために、地域の方々と共に、たくさんの体験をさせる意味について考えているところである。 ●全て新鮮で学ぶことばかりだったが、急ぐ必要はないということを大切だと感じた。子供たちを置いてけぼりにせず、しっかりと子供たち自身の行動や声を大人はしっかり待つことが地域協働の中で重要だと思った。 ●可視化していくと、空白部分が明確になり、その部分を増やしていくのではなく(時にはストップをかけることも必要)、よく考えてみんなで一緒にやっていくということ、工夫も大切だということ、それをコーディネートしていくことが役割だと学んだ。 ●当事者として関わっていくことの大切さと当事者だと思ってもらうことの大切さを学べた。 ●地域とともにある学校として、地域の人とさらにつながりを深めていきたいと思った。まだ、「みんなで」という視点から、教職員全員でもっと地域に出かけ、地域の人、もの、ことを知ることで、教育課程に生かしていきたいと思った。 ●地域学校協働活動を活性化していくためには、「何のために」「どのような仕組みで」やるのかを熟議等でしっかり論議・共有して、学校の重点実践課題やこどもの願いや実態・課題とマッチした活動内容を創っていくことが大切であると、改めて考えることができた。 ●誰かが頑張るだけではうまくいかないの、全員(学校-家庭-地域-子供)が当事者意識をもつことと誰でもできるシステム化(持続可能にする)を作っていくことが一番の近道になるということがよく分かった。 ●未来の子供たちのために、今、地域、学校で何ができるか協働し、支援していくことが大切だと思いますが、やはり一人一人の考え方が違うので、支援していく大人たちがしっかり熟議し、関わっていくことの大事さがあると思う。学びたい教諭だけ、管理職だけでなく、全員が知り、関わっていきたくないと難しいと思った。 ●学校としては、地域の方の考えや思いに触れることができ、今後のCSの運営に大変参考になった。特に、管理職のみならず、教諭等との熟議の在り方が参考になった。 											

Q:その他【自由記述】（一部抜粋）

- 回を重ねるごとに、プログラムや進行もより分かりやすく、取り組みやすいものになっていったと思う。
- 子供たち一人一人が充実した毎日を送れるように、私たちも学びを大切にしていかなければならないと思う。
- 時代の変化、現状の認識を広く共有していく必要性を感じる。この取組をPTAなどにも広げてはどうだろうか。
- ワークショップを通して、早くカリキュラムマップをつくりたいと思いました。世代交代の方法など、知りたいことがいろいろ教えていただけて、3回の中でも一番参考というか、モチベーションが上がった。